

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	発達応援スペースジブドキ			
○保護者評価実施期間	2026年1月10日		～	2026年1月26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32人	(回答者数)	21人
○従業者評価実施期間	2026年1月10日		～	2026年1月26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数)	8人
○事業者向け自己評価表作成日	2008年2月26日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者との緊密な連携と情報共有	電話、連絡帳、LINE等を活用し、日々の様子を細やかに共有できる体制を整えている。	SNSなどを通し、事業所内の様子を写真や動画を用いて発信していきます。
2	子供が安心し、楽しめる居場所の提供	マンツーマン対応や環境設定を工夫し利用児童が自分のペースで過ごせるよう配慮している。 また、「次に何をするか」がわからない不安を解消するため、スケジュール表や活動内容を掲示し、子供が自ら次の行動を予測できる環境を整えています。	興味関心をさらに広げられるよう、個別の特性に合わせた新しいプログラムを導入していきます。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族支援プログラムの不足	保護者の孤立感や悩みを解消するための座談会や保護者同士の交流を促進する仕組みが整っていない。	保護者同士の交流が図れる仕組みとして、相談会や交流会、座談会などを計画する。
2	きょうだい児や保護者同士の交流機会の欠如	支援対象の子供本人への直接支援が中心となり、家族全体のケア(交流会等)を促進する仕組みが整っていない。	休日を利用した「家族交流イベント」の開催や、保護者同士が悩み相談できる茶話会を計画する。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 発達応援スペースジブドキ

公表日 8年 2月 26日

利用児童数

30

回収数

21

	チェック項目	はい				どちらとも いえない				いいえ				わからない				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない						
環境・ 体制 整備	1	16	4	0	1	16	4	0	1	16	4	0	1	思います。	活動内容に合わせて机や備品の配置を柔				
	2	20	1	0	0	20	1	0	0	20	1	0	0	思います。	支援の手厚さを意識した職員配置を行っ ており、現状は適切な体制であると考え ています。				
	3	19	1	0	1	19	1	0	1	19	1	0	1	思います。	バリアフリーで子どもたちにわかりやす いです。				
	4	21	0	0	0	21	0	0	0	21	0	0	0	思います。	毎日の清掃と消毒を徹底し、清潔な環境 を維持します。				
適切 な 支 援 の 提 供	5	16	3	0	2	16	3	0	2	16	3	0	2	思います。	お子様の特性を深く理解するため、定期 的なスタッフ研修を実施し、日々の小さ な変化も見逃さず、チーム全員で情報を 共有し、一貫性のある関わりを行ってい きます。				
	6	20	1	0	0	20	1	0	0	20	1	0	0	思います。	実際の活動の様子を連絡帳で伝え、「計 画通りの支援」を実感できるよう努めま す。				
	7	17	2	0	2	17	2	0	2	17	2	0	2	個別支援計画を主に6か月の目標に基づ き作成してくれていると思います。	6ヶ月ごとの目標に基づき、お子様と保 護者様のニーズを客観的に分析した計画 を作成します。				
	8	18	2	0	1	18	2	0	1	18	2	0	1						
	9	18	0	0	3	18	0	0	3	18	0	0	3	思います。	個別支援計画で立てた目標が、日々の遊 びや学びにどう繋がっているかを職員間 で共有していきます。				
	10	19	0	0	2	19	0	0	2	19	0	0	2	思います。	利用児童の興味・関心を引き出し続けら れるよう、季節の行事、新しい創作・プ ログラムを定期的に導入します。				
	11	6	3	2	10	6	3	2	10	6	3	2	10	今はまだ参加していませんが、これから ありそう。期待しています。	「これからに期待」というお声を大切に 受け止め、段階的に計画していきます。				
保 護 者 へ の 説 明 等	12	20	0	0	1	20	0	0	1	20	0	0	1	説明ありました。	わかりやすい説明、資料の整備に努めま す。				
	13	20	0	1	0	20	0	1	0	20	0	1	0	説明ありました。	わかりやすい説明を心がけていきます。				
	14	5	3	7	6	5	3	7	6	5	3	7	6						
	15	18	2	0	1	18	2	0	1	18	2	0	1	連絡ノートで共有できて（共通理解がで きて）いると思います。	毎日の活動の中で見つけた、利用児童の 成長を職員の気づきとともに伝えしま す。				
	16	13	3	3	2	13	3	3	2	13	3	3	2						
	17	19	1	0	1	19	1	0	1	19	1	0	1	思います。	言葉だけでなく、表情やしぐさから「今 どんな気持ちか」を汲み取る関わりを全 職員で徹底していきます。				
	18	3	5	7	6	3	5	7	6	3	5	7	6						
19	14	3	1	3	14	3	1	3	14	3	1	3	・対応されています。 ・月曜日(祝日)の利用時、送迎時間の連 絡が遅く、早めの連絡をお願いしました が改善されませんでした。 当日もこちらから連絡するまで返事がな く、今後利用を忘れられないか不安に感 じました。	これまでの連絡ミスを深く反省し、送迎 時間の連絡漏れを防ぐため、意識の徹 底、アラーム機能などを活用し、改善し ていきます。					
20	17	1	0	3	17	1	0	3	17	1	0	3	思います。	内容に応じて最も確実で分かりやすい方 法を使い分け、保護者がストレスなく情 報を得られるよう努めます。					

	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	20	0	0	1	されています。	SNS等を通じて、日々の活動の様子を積極的に発信しております。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	19	2	0	0		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	20	0	0	1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	20	0	0	1	行われています。	利用児童が自らの身を守る行動を身につけられるよう、体験型の避難訓練や市役所職員を招いた非常時対応プログラムなどを実施しております。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	20	0	0	1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	17	2	0	2	あった時は、すぐに連絡してくれ（状況を伝えてくれます）学校でケガした時も様子見てくれて報告してくれました。	怪我や事故が発生した際の即時連絡はもちろん、発生時の状況やその後の応急処置の内容についても、これまで通り正確かつ丁寧にお伝えすることを徹底し、保護者様の不安を最小限に抑えるよう努めます。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	19	2	0	0	安心して通っています。	安心感を土台に、小さな成功体験を積み重ねられるプログラムを通じ、お子様の自信を育てます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	18	3	0	0	楽しみにしています。	季節の行事や新しい遊び、興味関心を広げるプログラムを提供します。
	29	事業所の支援に満足していますか。	20	1	0	0	とても満足しています。	より一層の手厚い支援を行っていきます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		発達応援スペースジブドキ		公表日		8年 2月 26日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		活動内容に応じて机や配置を変更し、十分な動線を確保しています。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	1	利用児童が多い日は、職員配置を調整し、柔軟な人員配置を行っています。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		トイレは車いすでも使用できる広さを確保し、指導訓練室の出入口も段差をなくしています。また、点字ブロックも設置しています。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		毎日、清掃と定期的な消毒を行い、清潔な環境を保っています。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	1	こどもの特性やその時の状態に応じて、落ち着ける場所へ移動できる柔軟な支援体制を取っています。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8		日々の支援や業務に直結した目標を職員間で共有するとともに、会議やミーティングの中で振り返りの時間を設け、職員が意見や気づきを発言できる機会を確保しています。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	2	保護者向け評価表（アンケート）を実施し、保護者等の意向や満足度、要望を把握するとともに業務改善につなげていきます。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		定期的な会議やミーティングを通じて職員の意見や気づきを把握する機会を設け、職員から出た意見や提案を共有し、業務内容や支援方法の見直しに活用しています。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	2		今後検討していきます。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		職員の資質向上を目的として内部研修やオンライン研修等を受講できる機会を確保するとともに、法人内研修や事業所内研修を実施し、支援に必要な知識や技術を学ぶ場を設けています。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		事業所内及び会社HPで公表しています。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		作成前に、現場職員を交えた会議を実施。各職員が現場で見た「こどもの強みや興味」を出し合い、多角的な視点を計画に反映させています。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	1	職員間で児童の行動などを共有し、個別支援計画に反映させています。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		児童発達支援ガイドラインの5領域を網羅した計画のもと、保護者の意向をミーティングを通じて把握し、職員がチーム一丸となって目標に沿った支援を展開しています。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		スタッフが全員で活動内容を考え、リーダーが活動手順書を作成しています。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		曜日固定で利用されていますので、色々な事に経験・体験できるように配慮しています。		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8				
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		毎日の支援開始前に、その日の活動内容や各児の留意事項について職員間で打ち合わせを行っています。		

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		終礼では、その日の気づきや利用児童の変化を共有しています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	1	全スタッフが把握できるよう、常に情報を共有しています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	8		生活・遊び・学習・地域交流を組み合わせ、日々の活動に反映しています。	
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8		活動内容や役割を複数提示し、子どもが選べる場面を設けています。	視覚支援（写真・カード）をさらに活用し、選択の幅を広げます。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	1		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8		下校時刻や行事予定を確認し、送迎や支援に反映しています。	情報共有の記録を残し、職員間での共通理解を高めます。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8			こちらからも働きかけていけるような関係性を構築していくことが今後の課題だと捉えています。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	2		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6	2	地域の児童発達支援センターへ実際に足を運び、施設の視察や意見交換を行っています。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	5	3		こちらからも働きかけていけるような関係性を構築していくことが今後の課題だと捉えています。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	3		
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		送迎時や連絡帳等で利用児童の様子を伝えていきます。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	1		
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		利用開始時に丁寧な説明を行っています。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		契約時の対面談に加え、日々の送迎やLINE、電話など、保護者が話しやすい多様な機会を通じて意向を確認しています。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	2		今後の課題だと捉えています。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	5	3		今後の課題だと捉えています。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		対面や電話に加え、日常的に利用しているLINEを相談窓口の一つとして機能させています。些細な困りごとでも「その瞬間に」発信できる環境を整えています。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	8		SNSを活用して日々の活動の様子を発信しています。文章だけでは伝わりにくい事業所の雰囲気や具体的な療育内容を写真や動画を届けることで、保護者が安心感を得られるよう工夫しています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		個人情報は保管庫に入れ、厳重に管理している。また、SNS等での情報発信に際し、事前の同意取得を徹底するだけでなく、スタンプ加工やアングル等の工夫により、個人の特定を避けた細心の配慮を行っています。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7	1	事業所の行事に地域住民の方々を招待し、一緒に活動する機会を設けています。子どもたちが地域の方と触れ合い、共に楽しむ経験を積み重ねることで、地域全体でお子様の成長を見守ってもらえる関係性を築いています。	

非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		実施している。また、活動の一環として、手洗い等も入れている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	1	避難訓練を特別な行事としてではなく、日々の活動の一環として組み込んでいます。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8		健康状態や緊急時の対応手順を直接細かく聞き取りを実施しています。	
	49	食物アレルギーのあることについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	1		
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	1	安全計画を事業所内に掲示しています。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	1	送迎時や活動中の「ヒヤリ」とした事例を職員間で共有しています。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		年に数回の形式的な研修だけでなく、日々の終礼時に振り返りを行っています。また安全カメラを設置しています。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8		身体拘束は「原則禁止」であることを前提としつつ、万が一、生命や安全を守るために緊急かつ、やむを得ない措置が必要となった場合の基準（切迫性・非代替性・一時性）について、研修を行っています。身体拘束を必要としない支援体制の更なる追求を継続します。	